

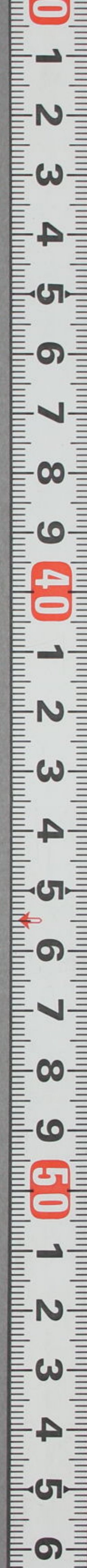


新編

和嘯始

四

1 3
1918
4



13
1918
4

大和事始卷之四目錄

飲食門 第九

飯一

鹽二

藏氷 八

茶 六

酒 三

饅頭 七

飴 四

烟草 八

人事門 第十

耕植 九

養蠶 附

漁獵 十

鷹狩 十一

誓 十二

起請 十三

湯起請 十四

祈禱 十五

祓除 十六

商 十七

俳優 十八

經織 十九

角力 二十

殉死 廿一

蹴鞠 廿二

藏書印子

瀨谷文庫

藏書印子

小田幸三郎
三田幸三郎
三田幸三郎
三田幸三郎

和事始卷之四

文教門 第十一

文學 九三 五經 九四

唱和 九七 花宴 九八

勅撰書 三十 片假名 九一

倭字 九四 倭歌 九六

○孔廟 九八 ○印板 九九

學校 九八 詩賦 九六

天子始讀書用孝經 九九

假名 九二 伊呂波 九三

連歌 九六 程朱學傳 七

大和事始卷之四目錄終

大和事始卷之四

花雲外史

飲食門 第九

飯 一

本花用耶非。停後田縮と用て飯と他多す
舊事記より。是飯と炊り始む人。

鹽 二

神代卷纂疏に云。塩とむるハ。初て塩は
乃祢。海と煮てこれと決りまじり。け祢ハ
伊井保る乃子也。

酒三

舊事記と掲ずふ。素戔嗚尊。脚摩乳を
 釀乳として。八醞八甕の酒を釀す。と
 あり。是酒也。又木花野耶麻。田稻
 とあり。天甜酒と。酒味のつと。あり。
 人代り。ぬく。神功皇后。三韓。還俗。より。
 て。酒り。と。せ。ま。ひ。養田。皇子。と。て。角廉
 の。氣。味。大。神。と。お。れ。に。ゆ。め。あ。ひ。そ
 る。ち。り。酒。味。か。も。て。結。結。ひ。と。あ

己。皇。子。ゆ。り。あ。ひ。て。それ。と。す。め。て。歌。と。よ
 み。ま。ふ。武。内。大。臣。皇。子。乃。あ。ふ。答。歌。一。と。あ
 り。け。と。酒。樂。の。奇。と。云。あ。り。記。よ。ん。
 あり。又。無。神。と。皇。の。内。時。百。飯。王。より。酒。を
 釀。と。り。成。さ。り。人。名。ハ。仁。妻。新。の。名。ハ。素。戔。嗚。尊
 子。大。酒。酒。を。か。も。て。天。皇。は。飲。み。あ。り。記。よ
 ん。と。あり。是。より。酒。の。製。法。精。一。と。あ
 り。か。か。へ。今。ハ。世。界。中。日。本。の。酒。り。及
 ち。外。一。と。あ

館 田

祚武^{ジム}天皇^ムの御時。能^{アヌ}成^ツ修^ツの^目を^カ始^メめん。

元永^{ヲサムコホリヲ} 又

仁^ニ徳^{トク}天皇^{ミナト}六十二年^{スカダノヲホナカ}又月^{コノワタ}。

子^ジ。國^{ツク}勢^ゲと云^{イハ}あり。國^{ツク}勢^ゲハ^ツ接^ツは^ツ玉^ツ武^ツ庫^ツ郡^ツヨ^ツ。獵^{カリ}は

あひて。ふよ^ホより^ホ中^{ナカ}と^ニなり^ニあひ^ニ。

廣^{ヒロキ}店^{イホリ}と^ツ修^ツり^ツを^ツ修^ツや^ツか^ツ修^ツあり。人^ツと^ツを^ツ

して^ツ足^ツせ^ツる^ツ人^ツと^ツあり^ツと^ツ。そ^ツ時^ツの^ツの^ツ

此^ツあ^ツり^ツは^ツ修^ツり^ツ人^ツと^ツあり^ツて^ツ回^ツせ^ツる^ツ人^ツと^ツ。

室^{ムロ}か^ツり^ツと^ツ。室^{ムロ}子^シその^ツ少^{コホリ}と^ツバ^ツり^ツや^ツり^ツ。

て^ツ納^ツむ^ツる^ツそ^ツと^ツ回^ツせ^ツる^ツ人^ツと^ツ。春^{コタヘ}て^ツり^ツさ^ツく^ツ土^{ツチ}と^ツ。

大^{ダイ}外^{ガイ}あり^ツて^ツま^ツと^ツあ^ツる^ツ。第^{カヤス}壹^スと^ツと^ツ何^{ナニ}か^ツ。

一^ツさ^ツく^ツ。少^{コホリ}と^ツ納^ツむ^ツと^ツい^ツう^ツや^ツり^ツか^ツ修^ツ大^{ツホヒ}早^サ小^{コホリ}

と^ツと^ツけ^ツむ^ツ。そ^ツと^ツあ^ツて^ツ契^{キツ}月^{ゲツ}は^ツ用^ツ修^ツと^ツあ^ツる^ツ。

そ^ツ時^ツの^ツ少^{コホリ}と^ツ仁^ニ徳^{トク}帝^{テイ}と^ツあ^ツる^ツ。そ^ツと^ツあ^ツる^ツ。

け^ツと^ツ。玄^{ハナハ}膚^ダ感^{エイ}あり^ツ。目^メを^ツ始^メめん。

う^ツせ^ツる^ツ目^メを^ツ始^メめん。氷^ヒと^ツあ^ツる^ツ始^メめん。

海^{ウミ}より^ツ季^キを^ツ始^メめん。と^ツ納^ツむ^ツて^ツあ^ツる^ツ。

氷室とありてゆりーかり。目あはよ

茶 六

海人藻苅とりふきり。新ハとちより我

あり。新茶を食として内裡よおめく約

云事候式ありて。新と偽心入唐乃時

て茶乃移氏後と也。相尾明也上人とれ

と歌なり。茶西もつと茶をた

る。のち傳記と古よりとけり。代乃とて

未乃及傳す。興義およそのうも内裡よて大

能傳よ茶とありあり。とちや。後より傳

と。弘仁六年四月。天皇近御滋賀韓

薩り奉り。多し。新茶を食としてなり

る。目あは後記より。とちや。目あに茶

秘けり事ハ。新茶を食として。建仁寺乃

用山子光國師。相尾の明也上人同記

烟草タバコ
草コ
八

ケイキキ
又長十年の^{コロ}時^{金メ}わい。始て目^{ワタ}なり。海^{ワタ}る。その
ち^{ニヤウイ}法人^{ニヤウイ}これと^{ニヤウイ}賞^{ニヤウイ}飲と。た^{ニヤウイ}も^{ニヤウイ}と^{ニヤウイ}ふ^{ニヤウイ}利^{ワタ}が^{ワタ}り

あゝ。漳列府志。漢類説子。漢書。姑と称す。
本草。同治。吳興沈復。才九よ云。烟草一名々想
思草。吉ハ人ふれを食時ハ則時々思想
歌るあり。味辛氣温。て毒あり。
寒濕痺と治。胸中ノ痞膈痰塞と消し。
経絡ヲ結滯と解く。人の腸胃筋脈をも
通暢すありと喜。灰且烟氣は吸入して直に
胃脈ヲ循て行。内より外に達すと。四肢百骸
至るが所なり。其功四あり。一、月ハ經道

ハトクこれとて破一む。蓋火氣蒸蒸
して表裡皆徹と。酒は飲がゆくり。二
めハ破ハドくもとて醒一む。蓋酒はよ
もと嚙て氣を寛一瘳臥下と内ハ解醒
故リ也。二月ハ乳まふくともとて飽一
む。四月ハ飽バくとそれとて餓一む。蓋
至ラ腹よりこれを食ハ充然とて氣盛に
して飽ガゆ。飽てはよろれと食不則
飲食快然とて消一易一。人逆よ是

とつく酒^{サケ}は代^{カヘ}花^{メイ}より代^{カヘ}く^{ヒ子モス}。然^シ目^メを食^クて
 厭^{アカハ}む。然^シ色^{シキ}は人^ニの宗^{ソウ}氣^キ一^ニ呼^フり脈^ニ行^{ユク}ゆ三^ニ
 す。一^ニ呼^フり脈^ニ行^{ユク}ゆ二^ニす。量^{リヤ}は一^ニ万^ニ二^ニ千^ニ又^ニ
 百^ニ息^ニ也。又^ニ十^ニ度^ニ身^ニを周^{メグリ}て脈^ニ行^{ユク}八^ニ百^ニ一^ニ十^ニ丈^ニ。
 此^レ自^レ然^ニ乃^{セツト}是^ガ度^フ也。脱^{ケイ}腑^{ラシ}經^キ絡^イ皆^ニ氣^ニを胃^イより
 うく^ク烟^ク胃^イ中^ニ入^テて頃^{ホウ}刻^{コク}少^シて身^ニに
 周^ハり。常^{ジョウ}度^トは是^ノく^クすて^ハ疾^{ハヤク}疾^ト乃^イ瘳^{チウ}
 あり。うく^クとく^ク氣^キ道^{ダウ}は^ニ平^{ヘイ}。通^{ツウ}神^{シン}候^{コウ}り
 決^{コト}り。然^シり^ハと^ハく^クも^モ火^ヒと^ハえ^エ氣^キと^ハあ^アる^ル

一勝ハ則一ハ負人の元氣かんを
 邪火は終日焦灼と云ふは堪へくんや必真
 氣目くは毒へ。陰血目は個。陽り天と
 換と。人もとぞ。ざめめ。凡内瘡外瘡
 と病もの。そ用通る力とりて。定温瘡瘡
 を延除て。又はあり。も。陰虛——
 火あるもの。もと食へば。煙とせんがめ。
 是を戒ふ。個。陰う。死めくはめ。玉痛と
 云の處。今俗は飲食のうらにこそ

酒茶煙草は三飲ハ其れく妙とな
 く。智あるとわめうな。わめてそれ
 と貴は。さ。酒ハ毒ありといふ。その
 く飲時ハ人々。毒ある。醫者ハ云ふ。
 ひとに毒人もの。とて。酒は。茶と
 酒と個。煩躁と云は。能あり。そ。煙草
 にも。毒れく。害多き。それ。は。酒
 とのれ。俗ハ。收婢。乃。是と。呪ハ。毒
 に。そ。士。人。乃。毒。は。俗

ころひ。身ミは害カイあふものところの賞カウと
 けり。甚シむがゆあへ。えわえの六月
 廿八日。將軍テウグン家ケより下テ日ニ令メイを下ゲして
 烟タバコ草コを吸スふ戒キ禁ンしむひ。ハ花コトハナある所
 かきてかりー。今キンを禁キン乃ユリ弛ユリけられしをな
 げーられ。

人事門 第十

耕植 九 附 養蠶

律リツ代ダイ考コよえ。保食ウチモチノカミ律リツ死シしてそ項イタキり牛馬ウシウマ化ナ
 為レり。顚ヒタイ乃ナとよ粟アハナレリ生ユ眉マユ乃ナとよ蠶カイなれり。服マユ
 乃ナ中ヒエり稗ヒエあれり。服ハラの中ウチに指イサなれり。陰ホド
 及ヒキ大豆マメ小豆アヅキなれり。天熊アメクマ人ヒトととくぐれ
 持モチ去サツてそてしられ。時々天照太神アメノミコよりあえん
 て日ヒこのおハ則ウツレ穴アナ見ミ養ヒト生サ乃ナ食クラフてりくべきもの
 也ナと宣ノミひて。粟アハヒ稗ヒエ及ヒキ大豆マメとくく陸田ハタツ種モ子コ

〜。稻と〜。水田狩子〜。又因て天邑
キ三 色。即そ編狩。天狹田及長田
よ。秋。そ秋乃金頼八極よ。あひて甚快。
又口れらに蠶をふんですれり。糸と地
ゆとゆり。これより初て虫蠶乃るあり。

漁十 附

大己貴命。此子事代主神。狩り。出雲。三
乃。碕あり。釣魚。花鳥と〜。衆とすと舊
ゆ。紀よ。り。そ。り。是。獵。漁。乃。始。か。〜。又。火。酢。

并命。海幸あり。海より魚。取。は。る。炭。火。
出。見。る。幸。あり。と。入。て。獸。と。獵。と。あり。是。皆。魚
獵。の。事。也。

鷹狩十一

仁徳天皇。四十二年。九月。依。網。乃。屯。倉。此。所。得
也。鷹。と。も。れ。百。餘。乃。五。子。酒。君。和。泉。公。百。舌
也。乃。乃。得。り。す。也。出。〜。終。成。れ。是。鷹。狩。の
始。なり。日本記

誓 十二

天照大神。素戔嗚尊と誓約しあひり
あり。月を乞ひて嫁なり。

起信 十三

古今集よ。賢過阿闍梨と云ふ人。
何よりを起るも人。急過僧正。氏聖の
肉食の人をいふ。不実利にとりそり
れと。僧正に云て。いさどいさして起信文と云て
三塔に披露せしむり。いさどいさして起信文と云て
破戒無慙く僧正持天衣座を主者。忍辱
三塔に披露せしむり。いさどいさして起信文と云て

於先賢方被狼藉於後輩者歟。因茲今討之。實
披陳けり。持信の人々。いさどいさして起信文と云て

むかひとて。いさどいさして起信文と云て。起信乃
か。いさどいさして起信文と云て。起信乃

俗よ。この慈恵僧正。いさどいさして起信文と云て。起信乃

昨勸信乃起信と云。起信乃二字。いさどいさして起信文と云て。起信乃

乃山亭の起信とて文一篇あり。いさどいさして起信文と云て。起信乃

乙卯と兼明親王の御子に成りて。山
 莊の約會と云ふは。一もの也。又東鑑才六
 は永久年中。鳥羽院の御子。御子。御子。
 周より。ある。起て。をす。あり。この
 起て。世に。あり。て。又子義隆乃
 依也。云々。起て。と。云々。ハ。平
 入る。藝。乃。嚴。め。も。念。院。は。世。同。と
 無理。の。せ。ま。い。せ。る。源。平。盛。衰。記
 は。出。た。も。云。ハ。云。云。源。義。隆。

兄。頼。朝。は。乙。卯。の。年。に。乃。る。牧。通。に。起。て。又。と。云
 を。す。か。と。い。ふ。も。た。れ。た。也。又。も。云。ハ。云
 乙。卯。の。年。に。乃。る。建。久。四。年。八。月。二。日。三。河。守
 範。頼。が。起。て。又。と。云。て。御。軍。家。に。を。せ。し。れ。叛
 遂。に。企。め。る。も。一。つ。又。尋。り。あ。り。也。も。云。ハ。云
 乙。卯。の。年。に。乃。る。今。世。に。成。り。た。也。

湯起傳 十日

應神天皇九年。武内宿禰と云ふは。武内宿禰乃身耳。英内

宿祢^{スクリノミ}孫^{サネ}孫^{サネ}云々としてしきあり。武内宿禰^{ツクリノミ}はありて
 三韓^{サンカン}とわつゝい謀^ム殺^{ホシ}せんといふ。天皇^{ミコ}乞^ヒとて
 急^{イサカ}めひ。使^{ツカヒ}とて武内宿禰^{ツクリノミ}と殺^{コロ}さしむ。然^{シカ}
 れは^{イキ}直^{アタヒ}去^ヘ根^ネ子^コと云ふもの。武内^{タケナ}の令^{メイ}に代^{カハ}
 りて死^シす。武内宿禰^{ツクリノミ}はむとていゆりて科^{トガ}あり
 けりとしてしきあり。天皇^{ミコ}きこしめ。新羅^{シンラ}は
 傳^{ワカ}て。武内宿禰^{ツクリノミ}と。耳^{ミミ}美^ミ内^ナ宿禰^{ノミ}とて。湯^ユ成^{サダ}探^{サグ}志^シ
 め。そ実^{ジツ}居^フと決^カしめ。武内宿禰^{ツクリノミ}は傷^{カチ}て。か
 りこゝろ官職^{クワンシキ}は復^{フシ}せり。け事^{コト}日本^{ヨメノ}紀^キにんを

己^キ乞^ヒ湯^ユ成^{サダ}傳^{ワカ}乃^ノ始^{ハジメ}也^ヤ。

新羅^{シンラ}十^{ジュウ}八^{ハチ}

天照大祚^{テンシヤウダイソク}。天^{アメ}意^ノ彥^{ヒコ}乃^ノ始^{ハジメ}也^ヤ。

天^{アメ}意^ノ彥^{ヒコ}乃^ノ始^{ハジメ}也^ヤ。天^{アメ}意^ノ彥^{ヒコ}乃^ノ始^{ハジメ}也^ヤ。

伊^イ弉^サ孫^{サネ}乃^ノ始^{ハジメ}也^ヤ。

後^{ハチ}除^ジ十六^{ジュウロク}

伊^イ弉^サ孫^{サネ}乃^ノ始^{ハジメ}也^ヤ。伊^イ弉^サ孫^{サネ}乃^ノ始^{ハジメ}也^ヤ。

伊^イ弉^サ孫^{サネ}乃^ノ始^{ハジメ}也^ヤ。伊^イ弉^サ孫^{サネ}乃^ノ始^{ハジメ}也^ヤ。

高^{タカ}十七^{ジュウシチ}

あり。儀コトニ々サデ々カ易カ一あり。亦代カ也カ交カ

八十
徼ワカ優ヲキ
のイミ也ナキ
今イミ云ナキ也ナキ

能侵ガキ一ヲキあり。舊キウ是コノ能侵ガキ乃始ヲキ也。

炭火^{ヒコホ}を^ハ出^デし^シて^ミより^ミび^トて。能^{ヨキ}優^クの^タ民^ミと^ニか^ニか^ニ

あり。舊
紀

天照大祚乃時。始コガニくニ農キヌ藝ヲ其ニ乃ニあり。則キヌラル經ニ識ニ

乃業ワザと起ヲし、
舊フルる紀

無^{フウ}祚^{ジン}天皇乃御時女工^{ジョコウ}代^{ジツク}御^ミ粧^{シツク}しゝるぬす

と受^{ウレヒ}まひ。十四年^{シヨウネン}。百^{ハク}洲^{サイ}必^{コト}より^{ヨリ}後^{キヌ}衣^{スイ}工^ヒ女^メ

毛^マ髪^ケと云ふのをめ。三十七の辻^ツ表^ハ。

と異^ゴ主^コは^ソ悲^ス志^ハて^テ海^キ工^ヌ女^又成^ヒ求^エ多^モ人^ト計^ト時^メ見^ミ暖^ニ

才媛吳織元織乃田人ともいふ。日本

織部リョウニン裁縫サイホウ乃ナ裾ジマ袴ハカマくクなれナレ

口

後儀て殉をやめよとあり。もとより、
 月か上代より殉死をせむか。月二十二年
 秋七月、皇太后、系孫姫命薨せし時、
 孫出雲國の土部一百人と喚上、値とせし人、
 終にこれおろし、死をせしむ。人よ易て、
 よきなり。月か上代より殉死、近世主君の
 教して死な、殉ふ俗を、死と云。後、
 院文和元年二月、細川頼朝、死せし。家
 自教して死な、殉ふものあり。もとより、
 世ハ東照神君の御子、武田信玄公、
 時、も家自小、多、忠重と云者、殉死とせ、
 事あり。もとより、死せし。死せし。死せし。
 文三年又月、軍家より、死せし。死せし。
 死せし。死せし。死せし。死せし。死せし。

世ハ東照神君の御子、武田信玄公、
 時、も家自小、多、忠重と云者、殉死とせ、
 事あり。もとより、死せし。死せし。死せし。
 文三年又月、軍家より、死せし。死せし。
 死せし。死せし。死せし。死せし。死せし。

蹴鞠 二十三

開、天皇の御時、
 又、
 真、
 け、
 蹴鞠、
 記、
 二、

の是れ用ひて中興の時時々といふをいふ
 先とすべし。いふとすれば。目下紀り
 極天里れは時中。大兄中。長孫子など。は
 あり。楓樹の下りて。歩鞠をり。ねこれと
 いて。是れ。又武天中より。前す。て。いふ。所
 也。

文教門 第十一

文學 二十三

應神天皇十三年。甲辰。秋八月六日。百濟
 王阿直岐。遣使。來。貢。良馬二匹。阿直岐亦
 貢。經典。と。あり。ある。子。菟道稚郎子。こ
 ろ。教。と。あり。て。教。と。あり。て。い。に。か。め。く。天
 皇。阿直岐。は。回。て。の。ま。う。百。濟。王。又。出。し
 たり。博士。あり。や。對。て。り。さ。く。王。仁。と
 いふ。もの。あり。され。と。れ。り。天皇。その。よ

とききしめ。カミツケノキミイラツラヤアタタカチキワケ
 百餘を以て王仁とめしむ。阿直岐ハ阿
 直岐史乃祖祖也。宋史日本傳云。無神天皇甲辰年
 十六年己卯二月五日壬申。天皇御宇。太子菟
 原稚郎子これを作として法乃典籍とす
 仁は智ひなる。通達すといふ。みづみづ
 仁ハ虫首場此始祖也。
 神皇正統記云。いふより。經史及文字と稱し
 りハ。是よりいふ。は。ま。り。と。あり。我。

又その始文字なり。コボ。シ。イ。ノ。ビ。ヨ
 ニ。ヨ。シ。キ。ヨ。ユ。キ。カ。モ。シ。ニ。サ。ヤ。グ。ニ。サ。イ
 不。大。に。匡。房。此。宮。務。記。に。是。り。と。り。け。し。時。り
 して文字を用ひし始なり。

又經 二十四

繼神て見せし。百餘を以て王仁とめしむ。阿直岐ハ阿
 直岐史乃祖祖也。宋史日本傳云。無神天皇甲辰年
 十六年己卯二月五日壬申。天皇御宇。太子菟
 原稚郎子これを作として法乃典籍とす

學校 二十又

我朝學校を立事。天智天皇乃御時始

大寶蔵序

中朝文粹長相公定元新事云伏して古記
 とする。朝家乃大学と立た事。大寶蔵中
 は始に大寶蔵父武今按ず。大寶蔵より
 流天竺乃所付。大学寮乃名。日本記より
 是。大寶蔵中。始にハあり。ざら。や
 日本後記。孝謙天皇天平寶字元年大
 学寮田二十所をた。後生徒稍氣
 て。費は低るに足。け。植武。

延暦十三乙酉十月。裁前。水田一百二町
 を加へ。とて百九餘町と勸学田と
 て。大学寮乃費は。せ。と
 是。げ。とい。ハ。祇。聖学
 乃。大学寮。ハ。法氏乃子。と入。
 歴史と学。これ。ハ。法
 乃。学校あり。学校田ありて。志あるもの
 学校。入て。もの。又源氏乃学
 田。と。学院。始。淳和院。橘氏

よ授ふれ。三代より後。天子は御後出始む
くハ考證を用ひる。

勅撰書 三十

元正天皇。天皇の御中。二名舎人親王。法皇位
下。太神宮安麿。あ人よ勅して。日記を撰
び。同日年。又月。又一日。夢見せり。日記に
て。勅して。と撰ばし。めらね。と。もと始
と。依神記

片假名 三十一

昔は云ふれ。と。ひきり。又。これを。大和假名と
云ふ。ハ。昔は云ふ。此。化。して。大和。必。又。起る。と
いふ。也。西。筆。を。人。記。

假名 三十二

假名。の。起。ハ。神。功。皇。后。の。あ。ま。の。み。と。云。傳。り
ど。無。神。天。皇。の。所。守。り。又。之。を。新。經。と。云。い。
又。人。と。振。さ。来。僅。み。又。字。を。智。耐。ハ。彼。時。に
と。られ。あ。る。一。也。秋。日。記。

河海抄。よ。云。今。此。世。の。う。れ。ハ。弘。法。初。て。化。る。

州

あゝ乃ちらみてい

卷之七

月日武志未化一々。蝦夷すてり平
 らる。目多足必より。カハ。ヒタチ
 甲斐ふより。酒の文よ居あ。トキ。ヒトモ
 してを食せられ。この和歌紙のく。サマヒト
 何て目らひ。カハ。ヒタチ。ヒトモ
 糸つる。依。依。答。カハ。ヒタチ。ヒトモ
 老えて。少。少。カハ。ヒタチ。ヒトモ
 よう。カハ。ヒタチ。ヒトモ
 の。カハ。ヒタチ。ヒトモ

目日紀のえ。是連歌乃望。カハ。ヒタチ。ヒトモ

程朱学傳 三十七

古ハ魯衛。又。カハ。ヒタチ。ヒトモ
 中。カハ。ヒタチ。ヒトモ
 の義と。カハ。ヒタチ。ヒトモ
 修。カハ。ヒタチ。ヒトモ

○孔廟 三十八

我國。カハ。ヒタチ。ヒトモ
 校。カハ。ヒタチ。ヒトモ

〇七九

目の中へく書籍と板を刻むるも始成志
 といえ久三年^{土御門院}山門申状。法然坊
 不造選擇集者^{ホウハフシヨナリ}。法書也。天下不可止置之。
 在く所^{モツ}持。并其印板大講堂取上。為報三
 世佛恩可燒失之由奏聞仕候^{リニハシメ}。ありと
 とくく入道バ。け時己^{ステ}。選擇集を板行せ
 也。志くれハ虫籍と板行す^{ハシカラ}。候。おそく
 させよりありけるな。又愛窓國^{ハツウコク}作^レの
 子妙葩^{ミセウハ}。お國^{キコク}ち^ニの祖也。愛窓^{アイサウ}多く佛書^{ブツショ}の集

本と板は刻あり。多くハ妙葩^{ミセウハ}が跋あり。又
 昨^{モロ}出^{ナラ}が板^{ハシカラ}行^{ハシカラ}せ。佛書^{ブツショ}あり。その後^{ヘイコク}火^ヒり
 かりて被^{ハシ}板^{ハシ}を^{コトク}多く燒^{ヤキ}ち^{ホロ}。そ^{バツ}あ^ツく不^フ得^{トク}と
 なり。昨^{モロ}出^{ナラ}が板^{ハシカラ}り^{ハシカラ}せ。ハ。昨^{モロ}出^{ナラ}が跋^{ハツ}あり。又義
 濃^{スイナラジ}乃^ス瑞^ス紗^サあり。と板^{ハシ}あり。けちハ^{クニ}山^{サン}あり。ち^{テラ}あり
 て。周^{スハシ}板^{ハシ}と^{ヒラキ}開^{ヒラキ}一^{ヒラキ}也。周^{スハシ}陽^{ハシ}ハ^{ハシ}口^{ハシ}あり。び
 より板^{ハシ}あり。也。門^{ナガト}乃^ナ香^カ積^キあり。云^{サン}字^ジ額^{ガク}の板^{ハシ}あり
 里^{スミナ}亦^ナ角^{カク}余^ヨと市^シ太^{タイ}泰^{タイ}ハ^ハ偽^{ヘイ}也。史^シ記^キ及^キ後^ゴ乃^ナ中^{チュウ}と
 開^{カイ}板^{ハシ}せ。む。瑞^ス紗^サが^ガと云^{ウン}也。此^{コノ}字^ジ義^ギ子^シ家^カ

^{テラセシ}恒を^{アレカッ}里利^{ボニ}中といふとさういふあきすむう
^{タリ}物頼^{タリ}ぬ後うさ時。家^{ワカニ}必^{カニ}乃紙と^{ツカハ}き^セて板とを
^{テイビニセイ}ら^ニめ^ニき^ニあ^ニそ^ニ程^ニ般^ニ改^ニか^ニ心^ニ經^ニ附^ニ後^ニさ^ニう^ニの^ニ頼^ニ
^{ハニ}より^ニ板^ニより^ニさ^ニう^ニ此^ニ近^ニ世^ニ代^ニ板^ニ中^ニハ^ニ変^ニせ^ニ此
^ス末^ニ。庭^ニ別^ニ長^ニ用^ニ集^ニま^ニど^ニめ^ニく^ニさ^ニう^ニ一^ニが^ニ寛^ニ永^ニ六
^コ通^ニり^ニあ^ニく^ニま^ニき^ニり^ニさ^ニう^ニや^ニ正^ニ保^ニの^ニ末^ニよ
^{ヲホ}里^ニより^ニあ^ニく^ニま^ニて^ニ今^ニハ^ニそ^ニ般^ニと^ニさ^ニう^ニべ。

大和事略卷之四終



大

